



朗読ボランティアサークル はなしのぶ

平成3年設立。目の不自由な人でも、玉名市や県からの情報を気軽に得る事ができることで、安心した生活を送っていただける。そのために“少しでも手助けできるように！”を目的としています。

ともに生きるみんなでつくる 誰もが暮らしやすい社会

「障がい」は、障がいの「からだ」や「ところ」だけにあるわけではありません。見方をちょっと変えてみると、気づくこと、できることがあります。文字から情報を得ることが難しい視覚障がいがある人のために、毎月『広報たまな』を朗読していただいているボランティアの皆さんを紹介します。



「声」で伝えるくらしの情報

紙の『広報たまな』以外に、『声の広報たまな』があること、ご存じですか？朗読ボランティア「はなしのぶ」の皆さんが広報紙を読み上げて録音、必要としている人に配布しています。

目の不自由な人にわかりやすく

「はなしのぶ」の活動は、今年で28年目。9人の会員が『広報たまな』をはじめ、社会福祉協議会だより『ぎずな』、『玉名市議会だより』を読み上げ、市内の視覚障がいがある人へ内容を「声」でお届けしています。

毎月『広報たまな』の印刷が始まるころ、会員が市福祉センターに集まって録音。マイクの先には視覚障がい者用デジタル録音図書規格（DAISY）に対応の機器2台とパソコン1台。3組に分かれ、同時に声を吹き込みます。聴き手に伝わるように、会員全員で工夫と努力。そのままではわかりづらい言葉や図、写真などは説明を加

えます。中には、朗読の勉強会に参加して活動に生かす会員も。録音したCDは、15枚に複製して9枚を郵送、残り6枚は市民図書館での貸し出し用に。これまで県知事賞のほか、玉名市長、外2団体から感謝状を受けました。

新しい仲間と広がるつながり

7月、2人の新会員が加わりました。國崎伴子さんは「利用者のお役にたてることうれしく思い、楽しみ」、安原日米さんは「利用者の人から感想をいただくことができ、つながりを感じうれしい」と話していました。

「はなしのぶ」は会員募集中です。入会や録音CDが必要な場合は、市社会福祉協議会地域福祉課（☎71・0080）まで。

